

ふりがな	やまがたけんりつてんどうこうとうがっこう
学校名	山形県立天童高等学校

校長名：窪田 俊昭

所在地：山形県天童市大字山元 8 5 0 番地

電話番号：023-653-6121

### 研究指定校の概要

#### 1 学校・地域の特色及び実態

- (1) 本校は、山形市に隣接する山形県の中央部に位置する。
- (2) 平成 11 年度より総合学科に改編し、6 系列を有している。地域との連携や、韓国的高校と姉妹校締結を行い、修学旅行やホームステイ事業などで交流を深めたりするなど、国際交流を特色としている。
- (3) 総合学科の特色として、2 年次より系列に分かれ、進路に応じた科目選択を行い、面談などを通してきめ細やかな進路指導を行っている。
- (4) 卒業後の進路は、約 7.5 パーセントが大学・短大・専門学校などの進学、2.5 パーセントが就職・公務員であり、多岐に渡っている。

#### 2 学校の概要（平成 19 年 4 月 1 日現在）

課程	学科	1 年		2 年		3 年		計	
		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
全日制	計	5	200	5	201	5	193	15	594
	計	5	200	5	201	5	193	15	594

〔教員数〕 41 名（家庭科教諭 2 名）

〔教科「家庭」科目の開設状況〕

研究対象科目：家庭基礎

研究対象以外の科目：

発達と保育、児童文化、家庭看護・福祉

フードデザイン、服飾手芸、

健康と栄養（学校設定科目）

ライフサポート（学校設定科目）

### 研究の内容及び成果等

#### 1 調査研究について

##### (1) 研究主題

家庭基礎における住生活分野の目標の実現状況の把握

##### (2) 調査研究のねらいと対象

〔調査研究のねらい〕

平成 18 年度

住生活分野の学習を通して、家族の住生活を、健康で安全・快適に営むことのできる、自立した生活主体者を育成するための、効果的な指導方法及び評価方法を行う。

平成 19 年度

平成 18 年度の研究内容及び課題を元に、評価規準の見直し及び授業改善を行い、指導と評価の一体化の構築を目指す。

公開研究授業等を通し、研究成果の普及を図る。

〔調査研究の対象〕

学年：第 1 学年

科目：家庭基礎（住生活の管理と健康）

内容項目	具体の単元（題材）	評価の観点			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
(ア) 家族の生活と住居 (1) 住生活と健康・安全	現代の住生活				
(ア) 家族の生活と住居 (1) 住生活と健康・安全	家族と住生活				
(1) 住生活と健康・安全	健康で快適な住まい				
(1) 住生活と健康・安全	安全で快適な住まい				
(ア) 家族の生活と住居	住まいの選択				
(ア) 家族の生活と住居 (1) 住生活と健康・安全	これからの住まい				

## 2 児童生徒の学習の実現状況と考察

「科学的視点から住生活をとらえ、主体的に住生活を営もうとする意欲や態度を身につける。」という、本調査研究のねらいへの到達に効果があった指導方法及び学習の実現状況について考察する。

### (1) 「単元の感想」に見るねらいの到達度

住生活の単元学習を終えた時に、「よりよい住生活を主体的に営もうとしているか」という視点から、感想を書かせることで「思考・判断」を評価したところ、人や環境に優しい住まいの工夫を実践しようとしていたり、消費者的視点からの選択眼を身につけ、生活主体としてのよりよい住生活のありかたを考えさせることができた。中には、経済効果よりも人の命や地球環境を優先させた社会作りの必要性について述べていた生徒もいた。この授業を通して、人や環境に優しい住まいの工夫にとどまらず、地域や社会を変革しようという意識が芽生え、思考が一層深まった生徒がいたことは、予想以上の収穫であった。

### (2) 住宅広告を持ち寄った、自ら選び取る学習

本研究のねらいでもある「生活主体者として住生活を営む」ことができるようになるために、教師側の一方的な教材提示ではなく、生徒たちに住宅広告を用意させ、「自分の住まいを選ぶ」という学習方法を通して住宅取得のシミュレーションを行うという授業構成にした。(資料1)

生徒たちは、興味・関心を持って取り組み、各自持ち寄った住宅広告をプリントに貼りながら、目的に応じた住みたい家のシミュレーションを行った。ほとんどの生徒が、興味・関心をもって消費者的視点から自ら学ぶことができた、という点で効果的であった。

### (3) 現代の住生活問題を単元の導入で提示

現代の住生活が抱えているシックハウス症候群や欠陥住宅及び耐震偽装などのさまざまな問題点について、新聞や機関紙などの具体的事例を単元学習の導入として提示したところ、住生活を学ぶ動機付けができ、学ぼうという意欲が

高まった。また、なぜそういった健康・安全を脅かす問題が多数起きているのかということを考えさせることで、消費者としての視点で、人や環境に優しい住生活の在り方や、望ましい社会の在り方についての理解を深めることができた。

### (4) 住生活の最先端の情報を画像で提示

「人や環境に配慮した住まいの在り方の工夫」に関する、県内外で施行されている具体的な事例を、パワーポイントで提示した。「環境共生住宅や環境共生型の町づくり」については、最先端の住まいの在り方や県内の環境条例が施行されている町並みなどを提示し、視覚に訴えることにより理解させる手法は、これからの住生活を考える上で効果的であった。

### (5) 臨場感を持たせた安全で快適な住まいの学習

「中越沖地震」の写真の提示や、「真夜中に大地震が起きた時、あなたは生き残れるのか。」というテーマを用い、避難経路の確認や非常持ち出し袋のリストなどを具体的に考えさせたりすることで、生徒たちは臨場感を持って内容を理解することができた。また、防災グッズや耐震対策グッズなどを具体的に提示し視覚化したことも含めて、自分の家でできる安全で快適な住まいの工夫に関する思考を深めることにつながった。

### (6) 自己評価の工夫

毎時間の終わりに、学習プリントにおいてセルフチェックによる自己評価をさせた。生徒の個人内基準に差があり、評価と結びつけた点数化には至らなかった。しかし、生徒の本時の目標確認のためや、「できなかった」と答えた生徒の掌握に活用できた。

## 3 評価方法に関する研究成果

### (1) 観点別評価の効果的な進め方について

毎時間毎の評価規準の解説

評価規準の達成度にかかわる「おおむね満足できると判断される」生徒の状況(B)か

ら「十分満足できると判断される」生徒の状況（A）にするための具体的な支援の仕方について、下記に示すような方法が効果的であった。

毎時間ごとに、導入時に（A）（B）（C）、の評価規準を、その学習を行った次の時間に、前時の復習として生徒たちに提示した。そのことにより、生徒たちはなぜ自分の評価が（A）ではなかったのかを明確に把握でき、「次は（A）の評価がもらえるようがんばろう」という気持ちになり、生徒たちの学習意欲を向上させることができた。

また、「努力を要すると判断される」生徒の状況（C）については、授業中意識してその生徒に声掛けを行った。

目標到達度をより高める工夫

生徒の評価を（A）段階にまで高めるために、教師側が（A）の評価規準の内容を意識的に授業に盛り込み、答えに結びつくようなアドバイスをすることが有効であった。しかし、自ら考えを引き出すような適切なアドバイスをすることの難しさを感じた。

評価規準の改善

平成18年度の研究を受けて、評価規準を整理し改善を行った。（資料2）

平成19年度の評価規準を、量的なものから質的なものを評価するよう改善したところ、授業の到達目標を明確にし、思考・判断の質を高めることができた。また、評価の観点をできるだけ減らすことは、目標が焦点化され有効であった。

#### (2) イメージマップによる効果的な評価

単元の最後の学習として、学習前と学習後の知識の量や意識の変化を見るために、イメージマップを書かせ、「技能・表現」を評価したところ、本研究のねらい到達度を明確に確認することができ、有効であった。（資料3）

単元学習前と比較して、学習後の知識の量や意識の変化が、教師のみならず、生徒にもはっ

きりとわかった。学習前は「外観や間取り」を住居の条件と考えていたが、学習後は「健康・安全、環境配慮」に求められていることがわかり、主体的に住生活にかかわろうとする意識が多くの子の学習プリントに表現されていた。イメージマップを用いることにより、効率的に目標到達度を確認することができた。

## 4 成果の普及と今後の展望

### (1) 研究成果の普及

平成18年度に、山形県高等学校教育研究会家庭部会の村山支部研究委員会と連携しながら実践研究を行った。平成18年度出版；県高教研の研究冊子「家庭基礎」の展開と評価その2において研究成果を部分掲載した。（資料4）

平成18年度に引き続き、平成19年度にも公開研究授業を行った。今年度は、本執筆者ではない家庭科教諭に、昨年度の研究を土台にして公開研究授業を実施してもらい、誰もが効果的に実施できる授業の在り方を模索した。授業終了後、指導と評価の研究内容について発表するとともに、研究協議を行った。さらに「これからの住まい」に関するパワーポイントで作成したファイルを希望者に提供した。

本校のホームページに、本研究指定校事業にかかわる内容を掲載する。

### (2) 今後の展望

4観点に基づいた評価を工夫しようとするほど、授業内容の精選及び提示する教材の研究を余儀なくされる。教師側が目の前にいる生徒にどのような力をつけさせたいのか、を明確に意識することの重要性を再認識させられた。

中学校と異なり、高校では社会科学的に広い視点に立った思考をさせ、自分の家庭のみならず、次世代を担う子どもたちが社会をどう構築していくか、という視点を盛り込んだり、自立

した生活主体者をどう育成するのか、また、人としてどう生きるのか、を家庭科で学習する意義は大きい。「家庭基礎」2単位という限られた時間内におけるさらなる指導内容の精選と、評価規準の焦点化が、今後ますます必要とされる。

本研究において、住生活の単元学習を終えた時に、生徒たちは、住生活を消費者的視点から社会科学的に捉えることができた。経済効果よりも人の命や地球環境を優先させた社会作りの

必要性について言及していた生徒もあり、意識の変容が認められた。

時代の先を見据えた教材の提示の仕方や、人としてどう生きるのか、を五感を使って体験的に学ばせるための指導法や、思考させる授業の工夫など、指導と評価の一体化を目指して、さらなる研鑽を積んでいきたい。

## 5 参考資料

### (1) 住宅広告を利用した「住みたい家を選ぼう」 (資料1)

◇建物に関する情報

●建物構造と間取り  
建物構造 ( 木造 ) 間取り ( 4LDK )

●家の広さ  
建物面積 ( 110.82 ) m<sup>2</sup>

◇室内計画  
貼り付けた家の各部屋に①から番号を記入し、各部屋をどのように使うか考えてみよう。

番号	①	②	③	④	⑤	⑥
広さ(畳)	6畳	0畳	6畳	7畳	畳	畳
用途	玄関、和室	子供室	子供部屋	子供部屋		

市中心部にも近く、区小・中学区の好物件、魅力的なインテリア設備です。

山形市諏訪町2丁目  
3,340万円+税  
新築建売

オール電化  
オールガス付  
通勤の利便性

●建物概要: 120.20㎡(36.70坪)  
●築年数: 120.20㎡(36.70坪)  
●構造: 木造半2階建て(基礎:オール電化)  
●間取り: 玄関、和室、LDK、2LDK、2DK、2DK+LDK  
●付帯設備: 第二種浴槽  
●車庫: あり、2台、屋根付き、2000L  
●近所: 東山小、区立第一中学校、山形市立諏訪町3分  
●交通: オール電化、オールガス、通勤利便性、2分  
●周辺: 公園、商店街、バス、スーパー、コンビニ、郵便局、2分、山形市立諏訪町3分  
●完成: 11月20日現在 (予定)

◇選択理由

(例) 20年後の自分の家族に合った間取りである	デザイン、素敵と感じ
交通に便利と感じ	同様の条件
家族に合った間取りと感じ	

★広告ではわからないため、実際に住居を見て確認することをまとめよう。

計画のよさ、入居物件の印象  
住居の環境、交通の便さ

★今日の授業をセルフチェック

	4	3	2	1
事前準備をしっかり行い、スムーズに前向きに取り組むことができたか。	4	3	2	1
情報きちんと読みとり、住居後の検討ができたか。	4	3	2	1
選択理由を明確にし、物件を選ぶことができたか。	4	3	2	1

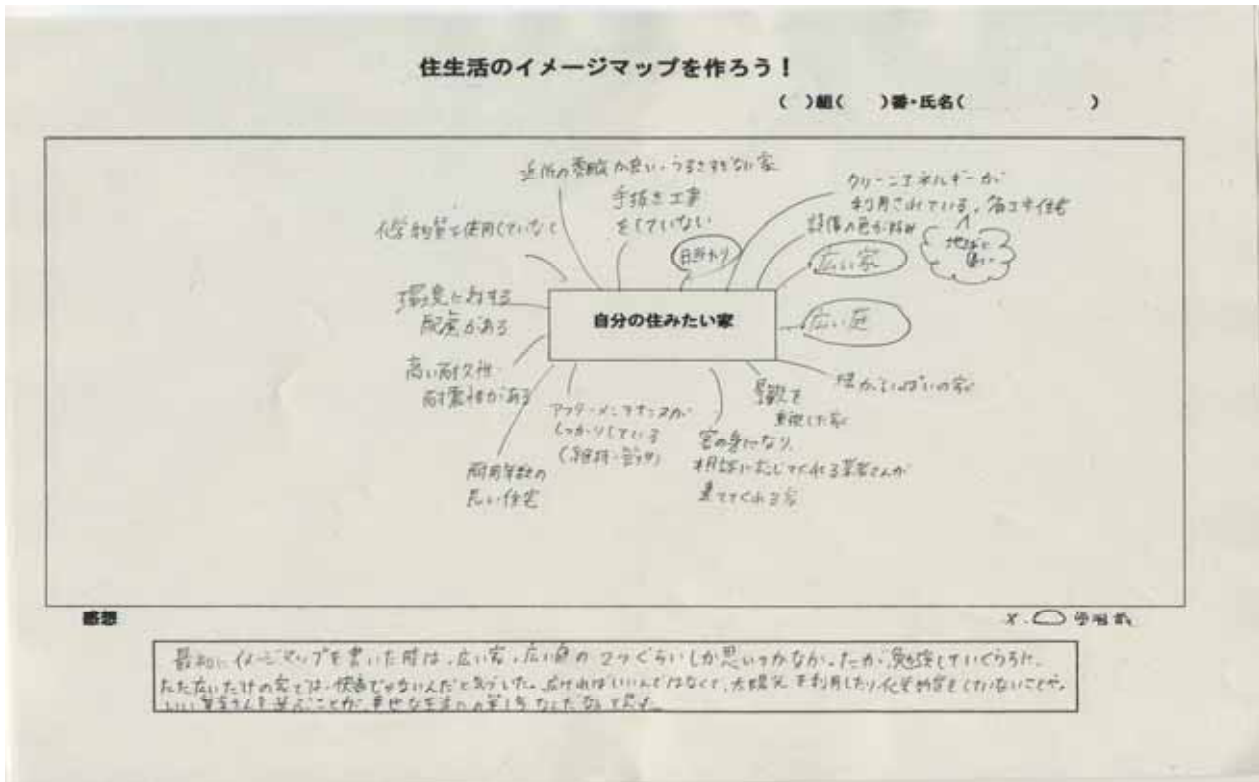
( ) 年 ( ) 組 ( ) 番氏名 ( )

(2) 教師用 評価の観点例 (資料2)

18年度				
時間		6		
評価方法		筆記テスト	イメージマップ	感想
目標		環境に配慮した住まいや住まい方の工夫を知る。	これからの住生活の在り方を考える。	主体的に住生活を営むことができる。
規準	A	正答率が80%以上である。	既習内容(間取り,健康・安全,環境配慮等)が盛り込まれている。 総数が20個以上である。	感想の中に,生活主体者として,消費者の視点からの考えが述べられている。
	B	正答率が60~70%程度である。	既習内容(間取り,健康・安全,環境配慮の3つの視点)が盛り込まれている。	何らかの記入がある。
	C	正答率が50%以下である	既習内容(間取り,健康・安全,環境配慮のいずれか)が盛り込まれていない。	ほとんど記入していない。
番号	氏名 観点	知・理	技・表	関・意・態

19年度	
6	
イメージマップ	感想
これからの住生活のあり方を主体的に考え表現することができる。	生活主体者として,今後,人や環境に優しい住まいの工夫を実践しようとしている。
既習内容(間取り,健康・安全,環境配慮等)をそれぞれ盛り込み,わかりやすく説得力のあるマップが描かれている。	感想の中に,よりよい住生活を営もうとする主体的態度や意欲が,社会的観点と共に述べられている。
既習内容(間取り,健康・安全,環境配慮)を複数盛り込み描かれている。	感想の中に,よりよい住生活を営もうとする主体的態度や意欲が述べられている。
既習内容(間取り,健康・安全,環境配慮のいずれか)が盛り込まれていない。	ほとんど記入していない。
技・表	思考・判断

(3) イメージマップ ( 学習前と学習後 ) ( 資料3 )



(4) 県家庭部会研究冊子 ( 資料4 )

